

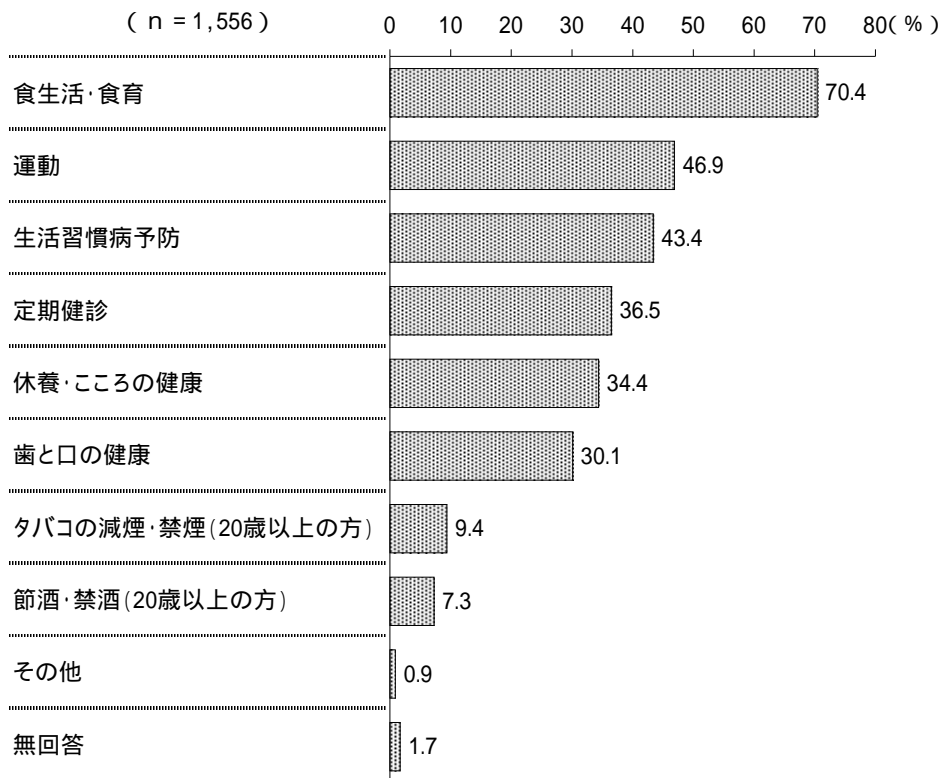
4 . 保健・医療・福祉・子ども

(1) 健康づくりで関心のあること

「食生活・食育」が70.4%

問21 ふだんの健康づくりで、あなたの関心のあることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(はいくつでも)

図表 4 - 1 - 1



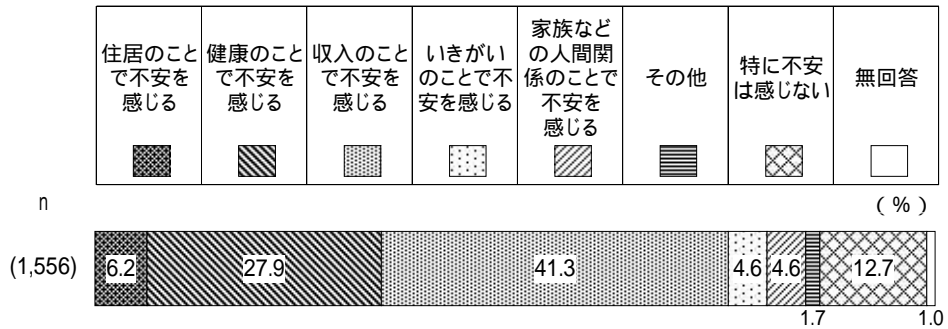
健康づくりで関心のあることをたずねたところ、「食生活・食育」(70.4%)が7割で最も多くなっている。以下、「運動」(46.9%)、「生活習慣病予防」(43.4%)、「定期健診」(36.5%)などの順となっている。(図表 4 - 1 - 1)

(2) 老後の生活への不安

「収入のことで不安を感じる」が41.3%

問22 あなたは、老後の生活について不安を感じますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。(は1つ)

図表4-2-1

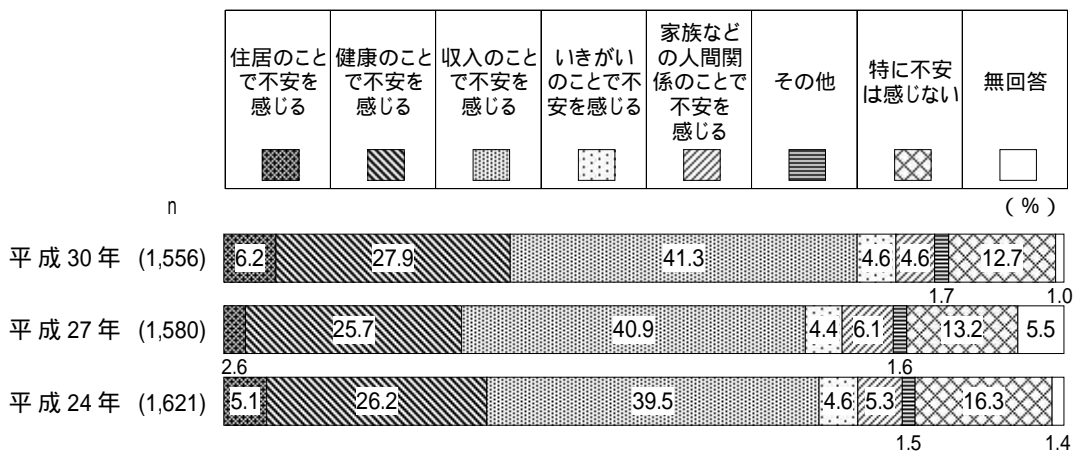


老後の生活への不安をたずねたところ、「収入のことで不安を感じる」(41.3%)が4割を超えて最も多くなっている。以下、「健康のことで不安を感じる」(27.9%)、「住居のことで不安を感じる」(6.2%)などの順となっている。一方、「特に不安は感じない」(12.7%)が1割を超えている。(図表4-2-1)

時系列でみると、「住居のことで不安を感じる」は前回調査より3.6ポイント増加している。

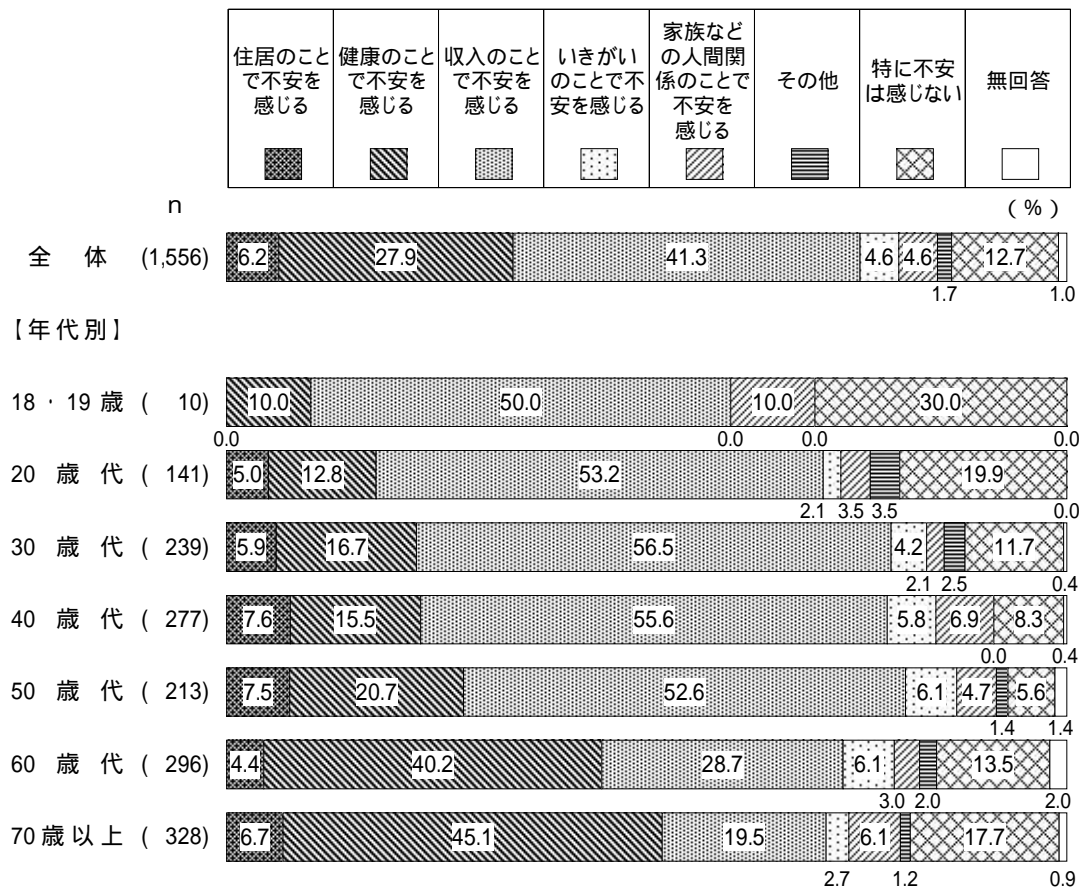
(図表4-2-2)

図表4-2-2 時系列 - 老後の生活への不安



年代別にみると、「健康のことで不安を感じる」はおおむね年代が高くなるにつれて多く、70歳以上で4割半ばとなっている。「収入のことで不安を感じる」は50歳代以下の年代で5割台と多くなっている。(図表4-2-3)

図表4-2-3 年代別 - 老後の生活への不安

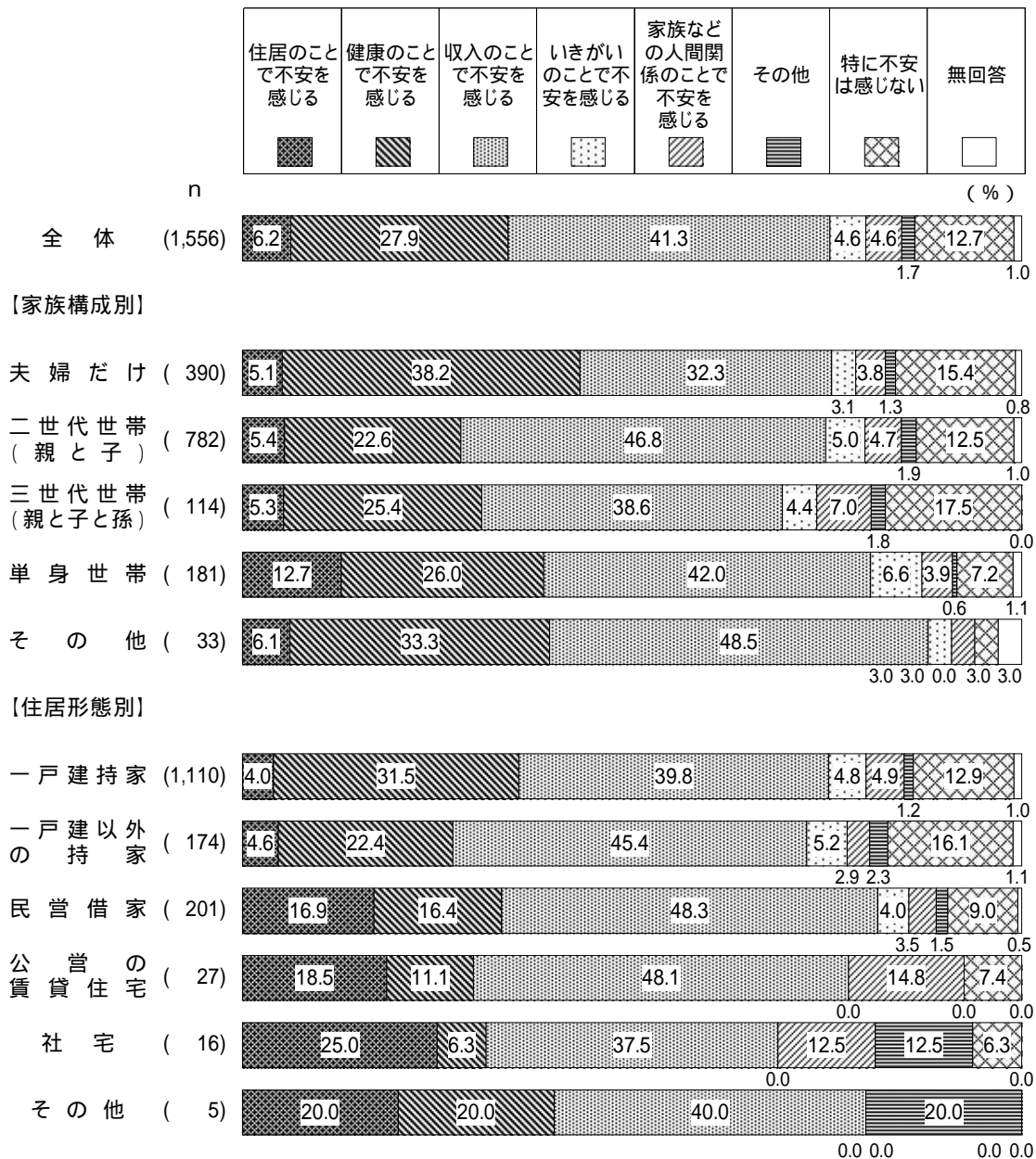


家族構成別にみると、「健康のことで不安を感じる」は夫婦だけの世帯で4割近くと多くなっている。「収入のことで不安を感じる」は二世帯世帯（親と子）で5割近くと多くなっている。

住居形態別にみると、「健康のことで不安を感じる」は一戸建持家で3割を超えて多くなっている。「収入のことで不安を感じる」は民営借家と公営の賃貸住宅で5割近くと多くなっている。

(図表4-2-4)

図表4-2-4 家族構成別、住居形態別 - 老後の生活への不安

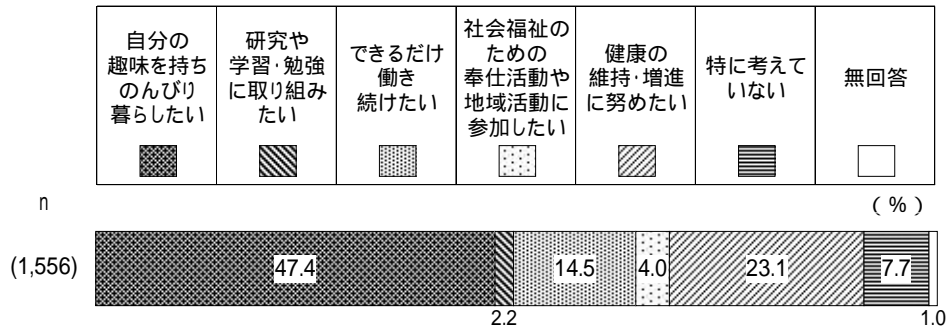


(3) 老後の過ごし方

「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」が47.4%

問23 あなたは、老後の過ごし方についてどのようにお考えですか。自分の考えに近いものを次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

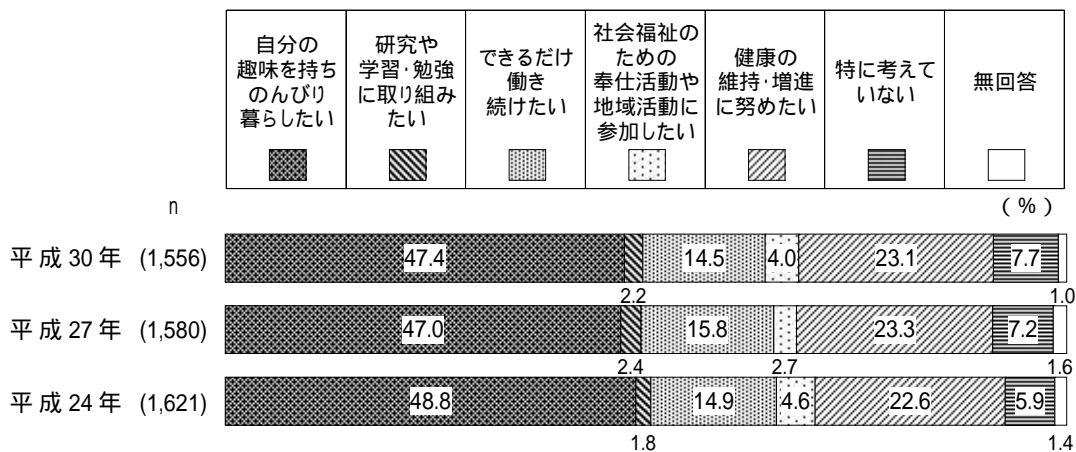
図表 4 - 3 - 1



老後の過ごし方をたずねたところ、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」(47.4%)が5割近くで最も多くなっている。以下、「健康の維持・増進に努めたい」(23.1%)、「できるだけ働き続けたい」(14.5%)などの順となっている。(図表4-3-1)

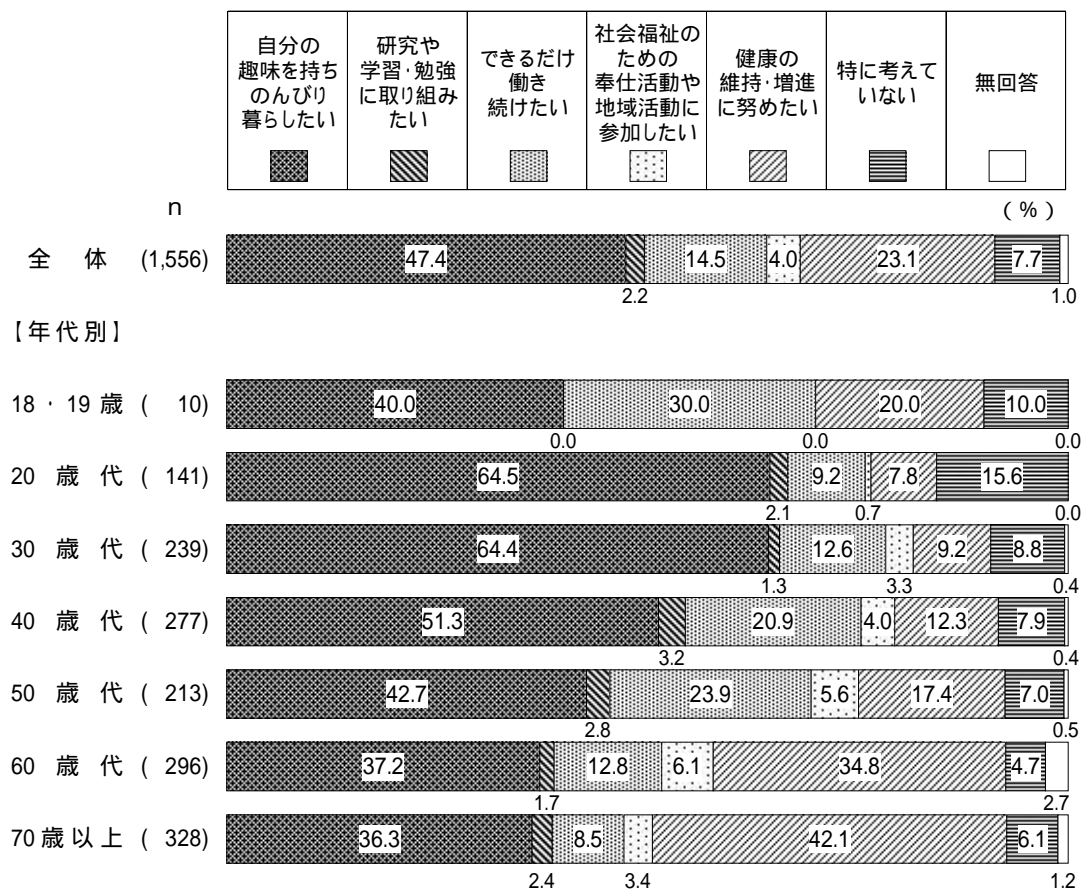
時系列でみると、前回調査と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表4-3-2)

図表 4 - 3 - 2 時系列 - 老後の過ごし方



年代別にみると、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」は20歳代と30歳代で6割半ばと多くなっている。「健康の維持・増進に努めたい」は70歳以上で4割を超え、60歳代で3割半ばと多くなっている。(図表4-3-3)

図表4-3-3 年代別 - 老後の過ごし方

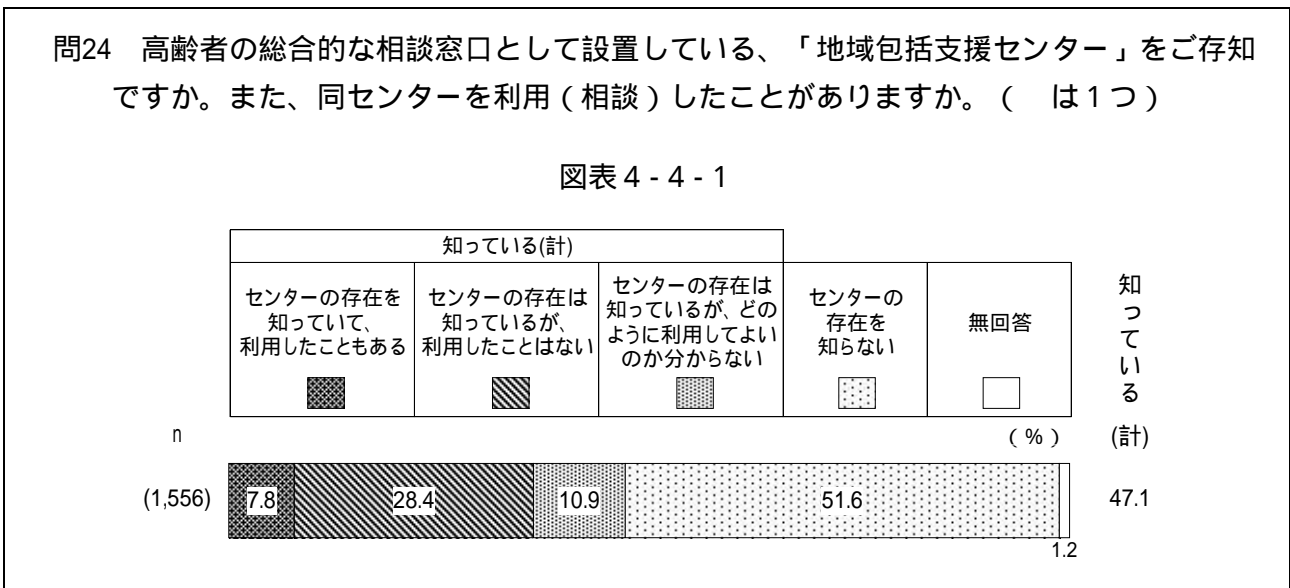


(4) 「地域包括支援センター」の認知度、利用状況

『知っている(計)』は47.1%

問24 高齢者の総合的な相談窓口として設置している、「地域包括支援センター」をご存知ですか。また、同センターを利用(相談)したことがありますか。(は1つ)

図表 4 - 4 - 1



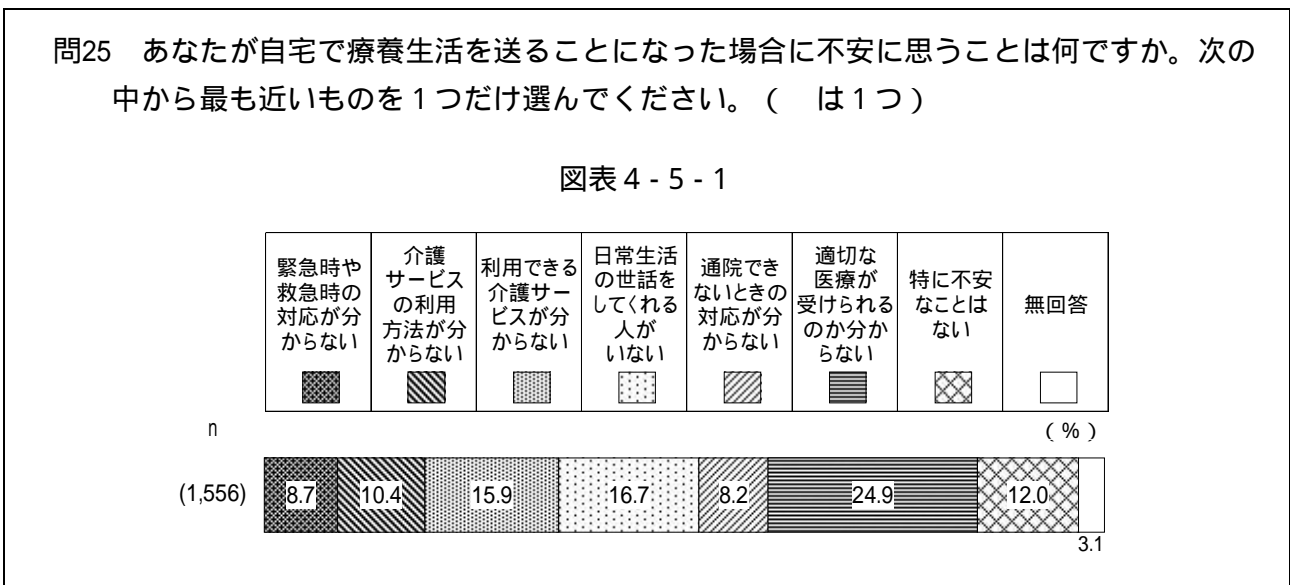
「地域包括支援センター」の認知度、利用状況をたずねたところ、「センターの存在は知っているが、利用したことはない」(28.4%)が3割近くで、これに「センターの存在を知っていて、利用したこともある」(7.8%)と「センターの存在は知っているが、どのように利用してよいのか分からない」(10.9%)を合わせた『知っている(計)』(47.1%)は5割近くとなっている。一方、「センターの存在を知らない」(51.6%)は5割を超えている。(図表4-4-1)

(5) 療養生活への不安

「適切な医療が受けられるのか分からない」が24.9%

問25 あなたが自宅で療養生活を送ることになった場合に不安に思うことは何ですか。次の中から最も近いものを1つだけ選んでください。(は1つ)

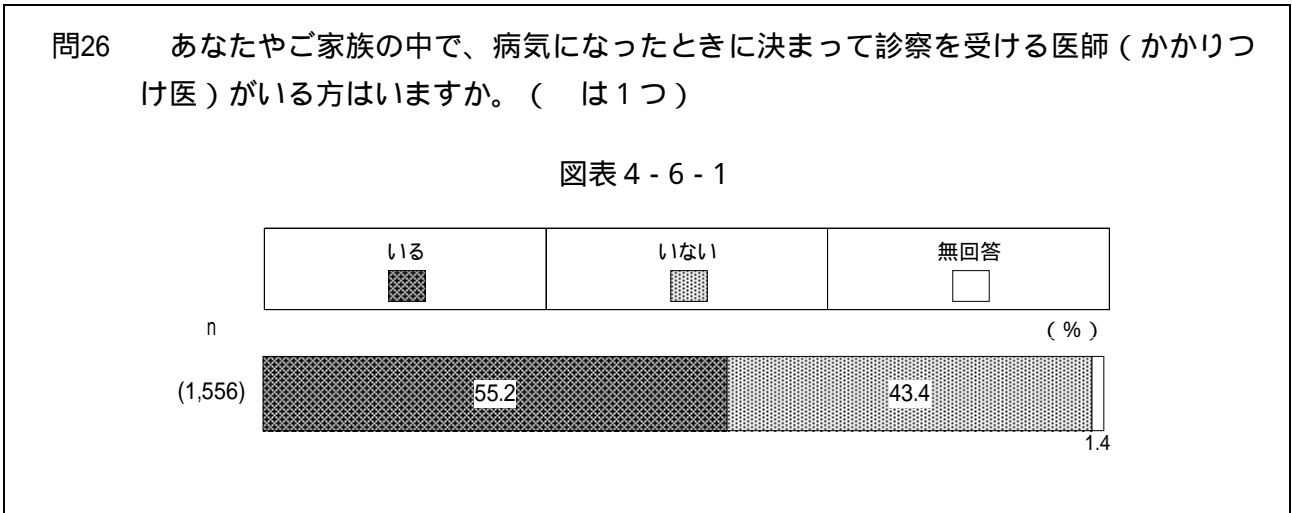
図表 4 - 5 - 1



療養生活への不安をたずねたところ、「適切な医療が受けられるのか分からない」(24.9%)が2割半ばで最も多くなっている。以下、「日常生活の世話をしてくれる人がいない」(16.7%)、「利用できる介護サービスが分からない」(15.9%)などの順となっている。一方、「特に不安なことはない」(12.0%)は1割を超えている。(図表4-5-1)

(6) かかりつけ医のいる家族の有無

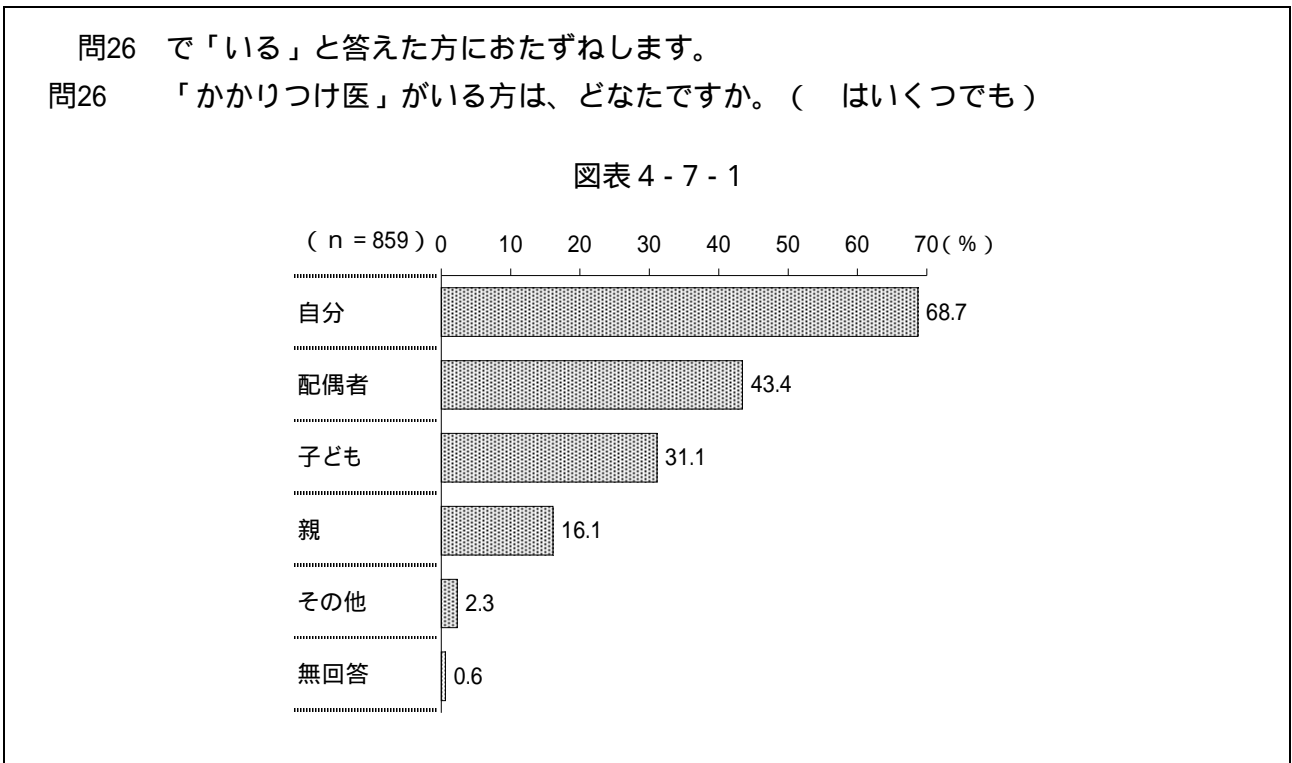
かかりつけ医が「いる」が55.2%



かかりつけ医のいる家族の有無についてたずねたところ、かかりつけ医が「いる」（55.2%）が5割半ば、かかりつけ医が「いない」（43.4%）は4割を超えている。（図表 4 - 6 - 1）

(7) かかりつけ医のいる家族

「自分」が68.7%



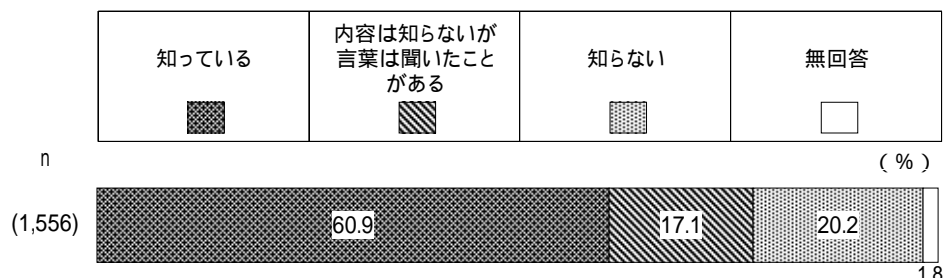
問26 でかかりつけ医が「いる」と答えた人（859人）に、かかりつけ医のいる家族についてたずねたところ、「自分」（68.7%）が7割近くで最も多くなっている。以下、「配偶者」（43.4%）、「子ども」（31.1%）、「親」（16.1%）などの順となっている。（図表 4 - 7 - 1）

(8) 「特定健康診査」の認知度

「知っている」が60.9%

問27 あなたは「特定健康診査」を知っていますか。(は1つ)

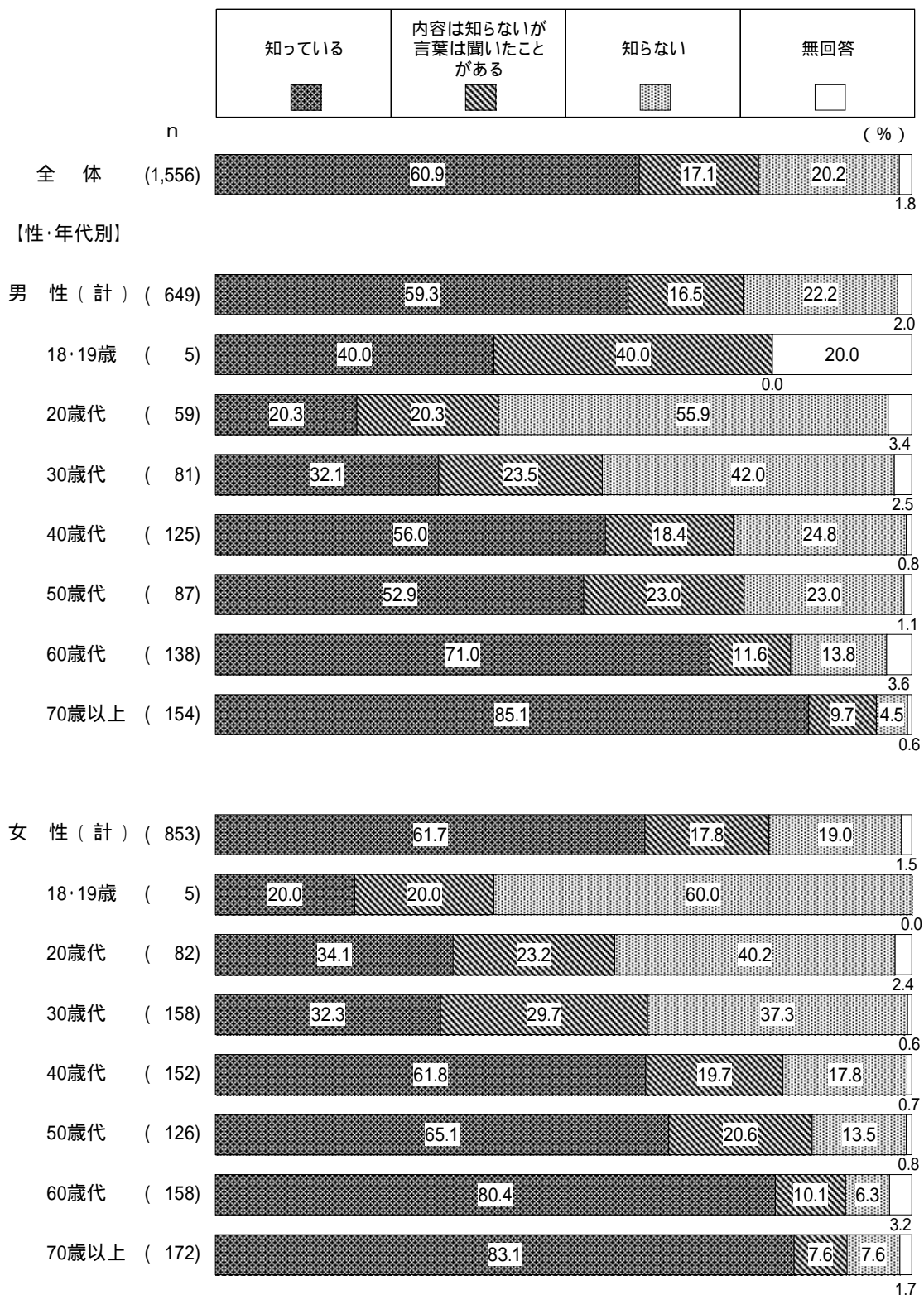
図表 4 - 8 - 1



「特定健康診査」を知っているかたずねたところ、「知っている」(60.9%)が約6割、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」(17.1%)は2割近くとなっている。一方、「知らない」(20.2%)は2割となっている。(図表4-8-1)

性・年代別にみると、「知っている」は男女ともにおおむね年代が高くなるにつれて多く、男性70歳以上と女性の60歳代、70歳以上で8割台となっている。一方、「知らない」は男性20歳代で5割半ば、男性30歳代と女性20歳代で4割台と多くなっている。（図表4-8-2）

図表4-8-2 性・年代別 - 「特定健康診査」の認知度



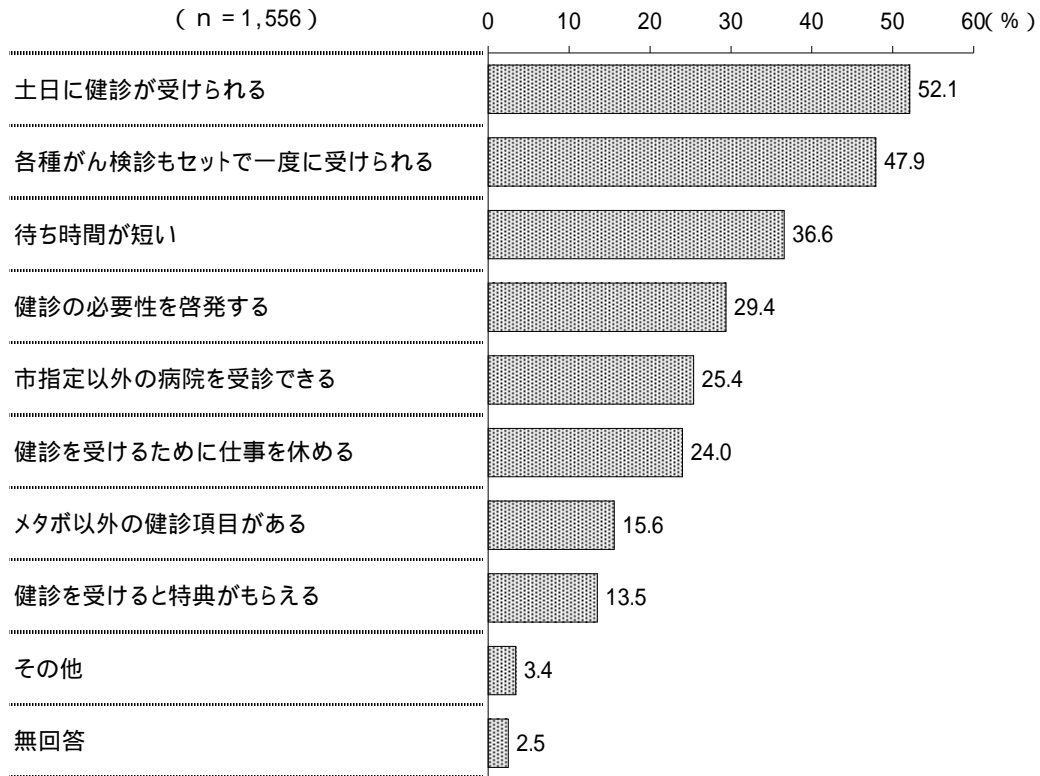
(9) 「特定健康診査」の受診率向上のための取組

「土日に健診が受けられる」が52.1%

問28 多くの方に特定健康診査を受けてもらうために、どのようにすべきだと思いますか。

(はいくつでも)

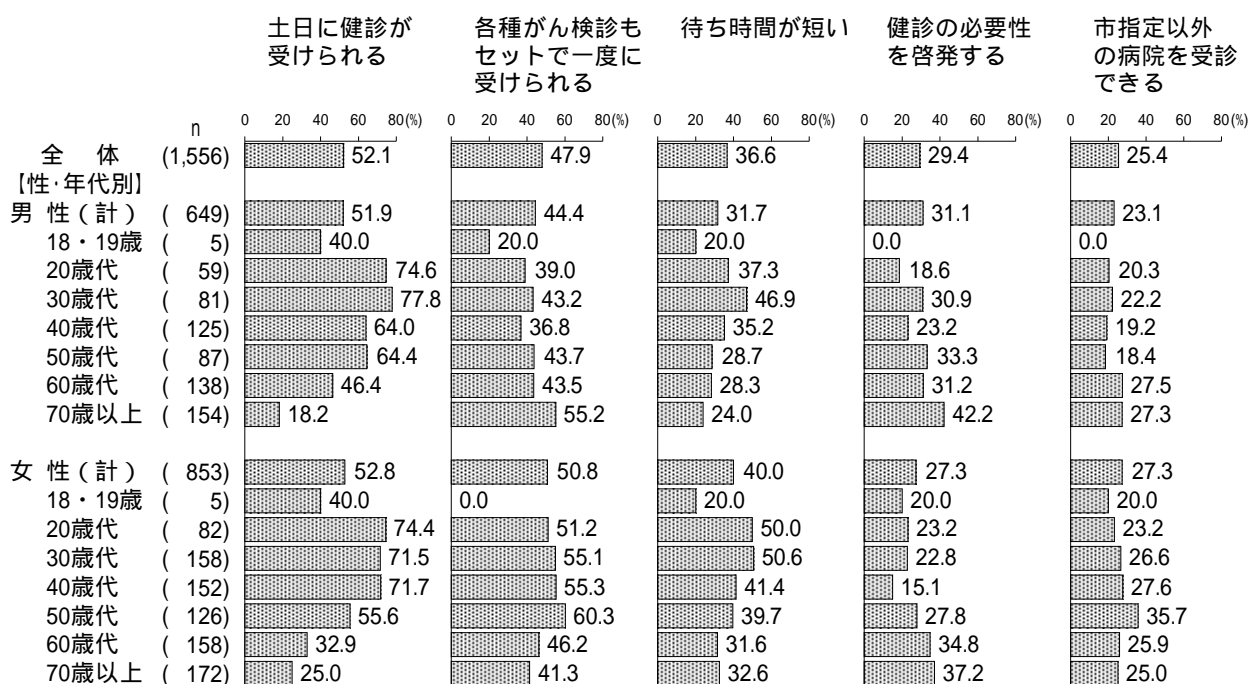
図表4-9-1



「特定健康診査」の受診率向上のための取組をたずねたところ、「土日に健診が受けられる」(52.1%)が5割を超えて最も多くなっている。以下、「各種がん検診もセットで一度に受けられる」(47.9%)、「待ち時間が短い」(36.6%)、「健診の必要性を啓発する」(29.4%)などの順となっている。(図表4-9-1)

上位5項目を性・年代別にみると、「土日に健診が受けられる」は男性の20歳代と30歳代、女性の20歳代から40歳代で7割台と多くなっている。「各種がん検診もセットで一度に受けられる」は女性50歳代で6割と多くなっている。「待ち時間が短い」は女性の20歳代と30歳代で約5割と多くなっている。(図表4-9-2)

図表4-9-2 性・年代別(上位5項目) - 「特定健康診査」の受診率向上のための取組



(10) がん検診の受診状況

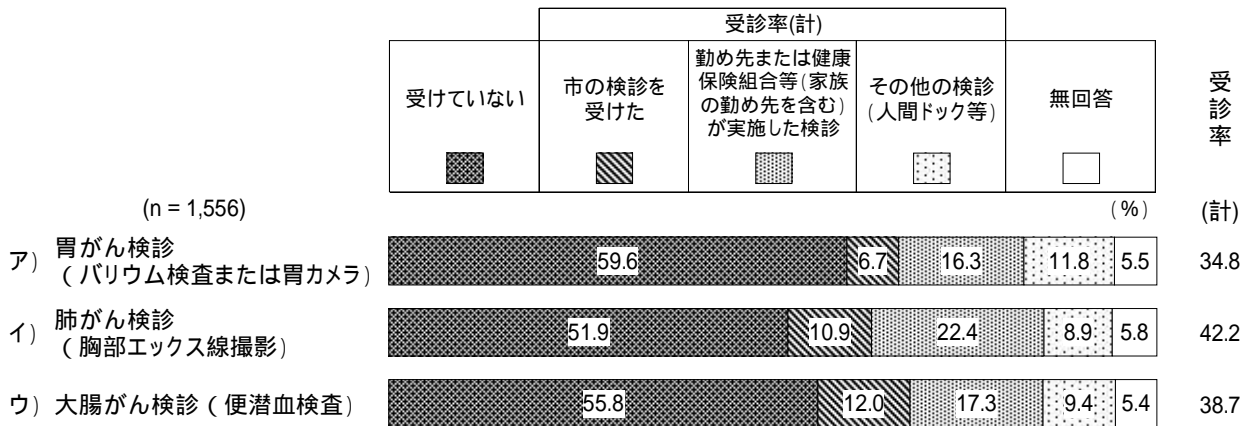
『受診率(計)』は“肺がん検診(胸部エックス線撮影)”で42.2%

問29 がん検診の受診状況についてお尋ねします。

あなたは過去1年間に次の検診を受けたことがありますか。(治療や診断のための検査は除きます)ア~ウの項目ごとに1つずつ選んでください。

(はそれぞれ1つずつ)

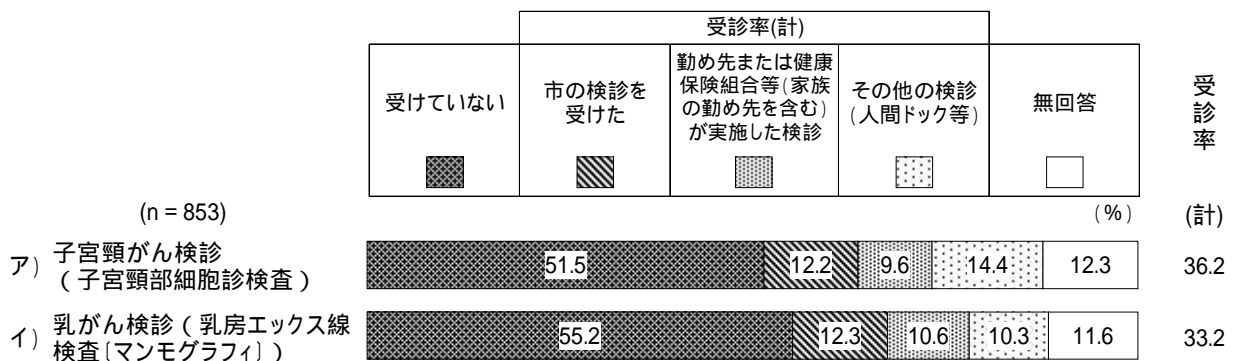
図表4-10-1



(女性への質問)

あなたは過去2年間に次の検診を受けたことがありますか。ア、イの項目ごとに1つずつ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

図表4-10-2

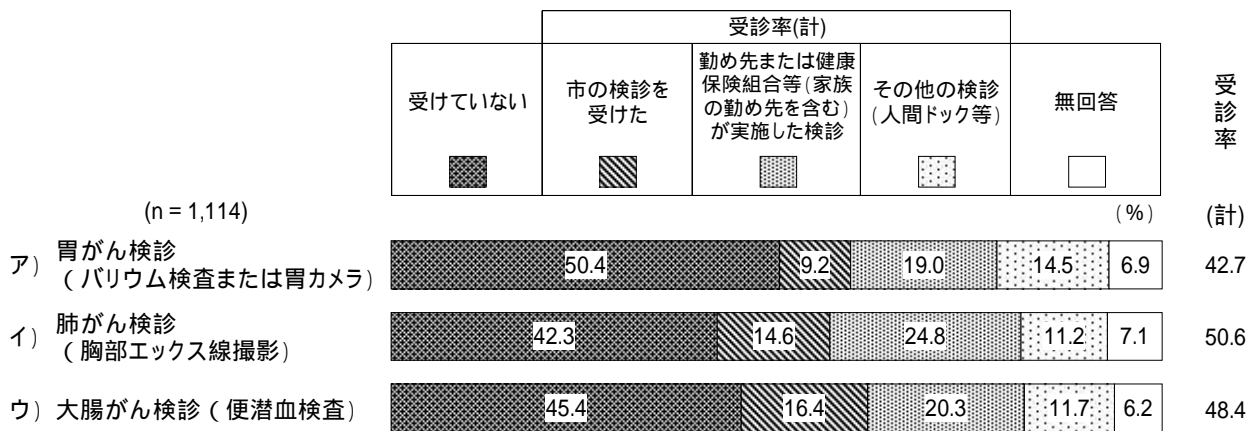


がん検診の受診状況をたずねたところ、「市の検診を受けた」、「勤め先または健康保険組合等(家族の勤め先を含む)が実施した検診」、「その他の検診(人間ドック等)」を合わせた『受診率(計)』は、“肺がん検診(胸部エックス線撮影)”(42.2%)で4割を超えて最も多くなっている。以下、“大腸がん検診(便潜血検査)”(38.7%)で4割近くとなっている。

(図表4-10-1、4-10-2)

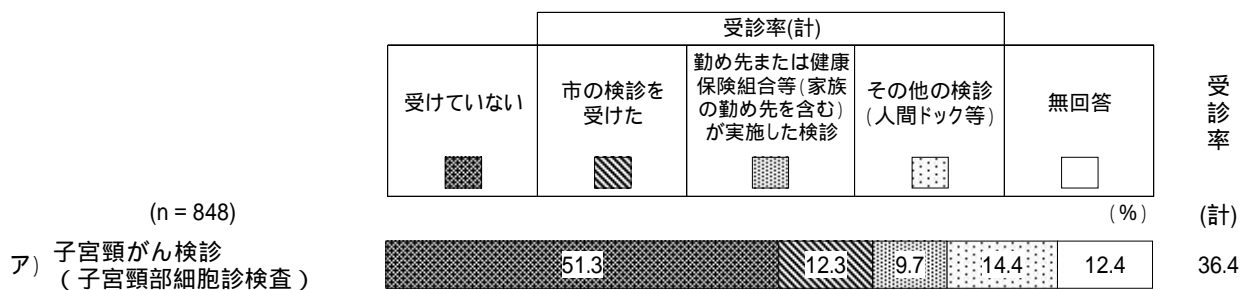
市のがん検診の対象年齢である40歳以上（1,114人）の『受診率（計）』は、“肺がん検診（胸部エックス線撮影）”（50.6%）で約5割と最も多くなっている。（図表4-10-3）

図表4-10-3 がん検診の受診状況（40歳以上の方）



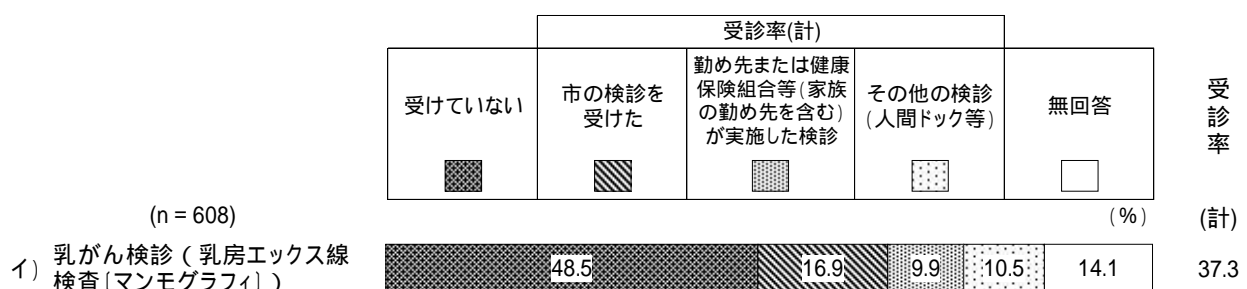
市の子宮頸がん検診（子宮頸部細胞診検査）の対象年齢である女性20歳以上（848人）の『受診率（計）』（36.4%）は3割半ばとなっている。（図表4-10-4）

図表4-10-4 子宮頸がん検診（子宮頸部細胞診検査）の受診状況（女性20歳以上の方）



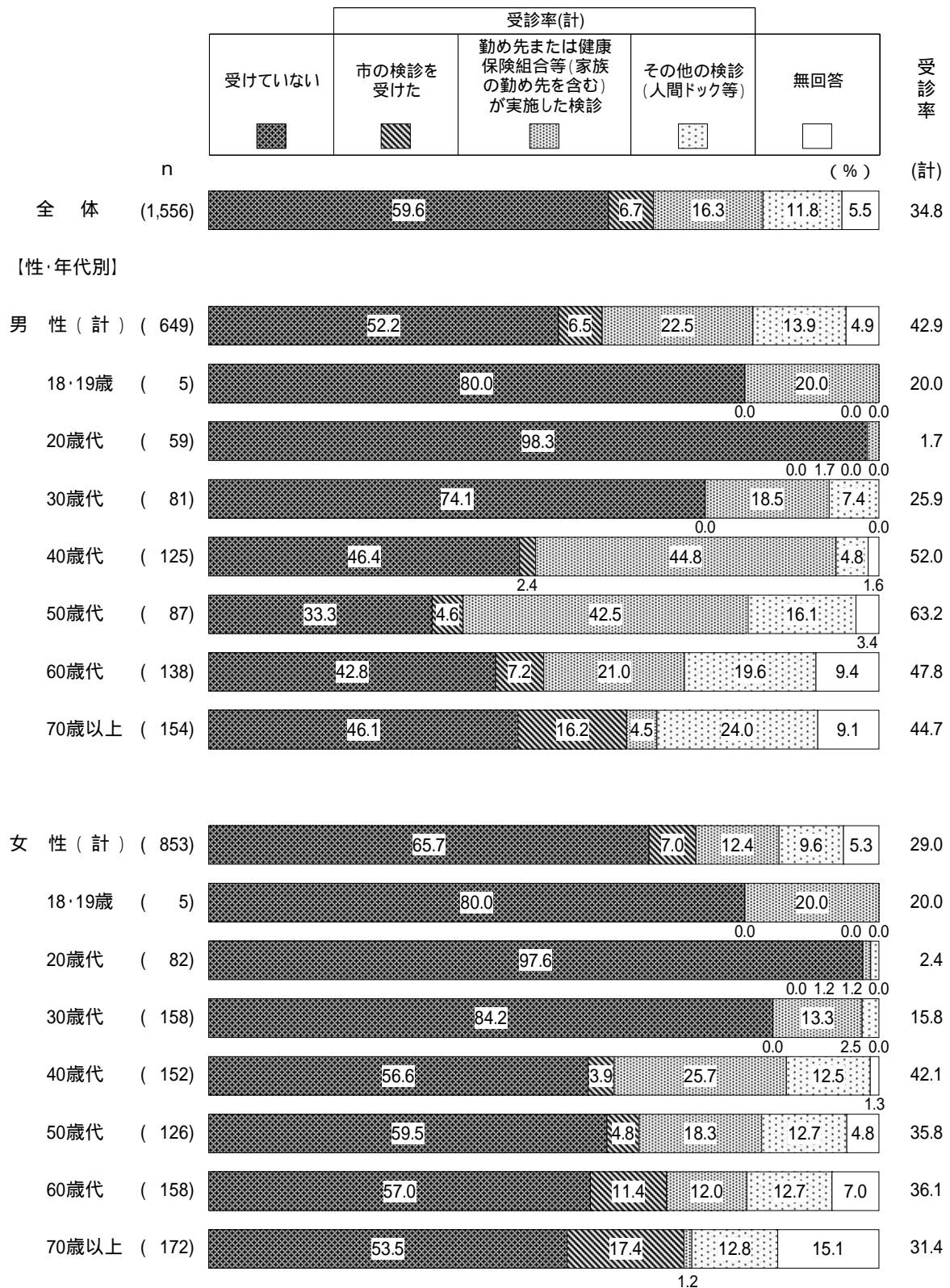
市の乳がん検診（乳房エックス線検査〔マンモグラフィ〕）の対象年齢である女性40歳以上（608人）の『受診率（計）』（37.3%）は4割近くとなっている。（図表4-10-5）

図表4-10-5 乳がん検診（乳房エックス線検査〔マンモグラフィ〕）の受診状況（女性40歳以上の方）



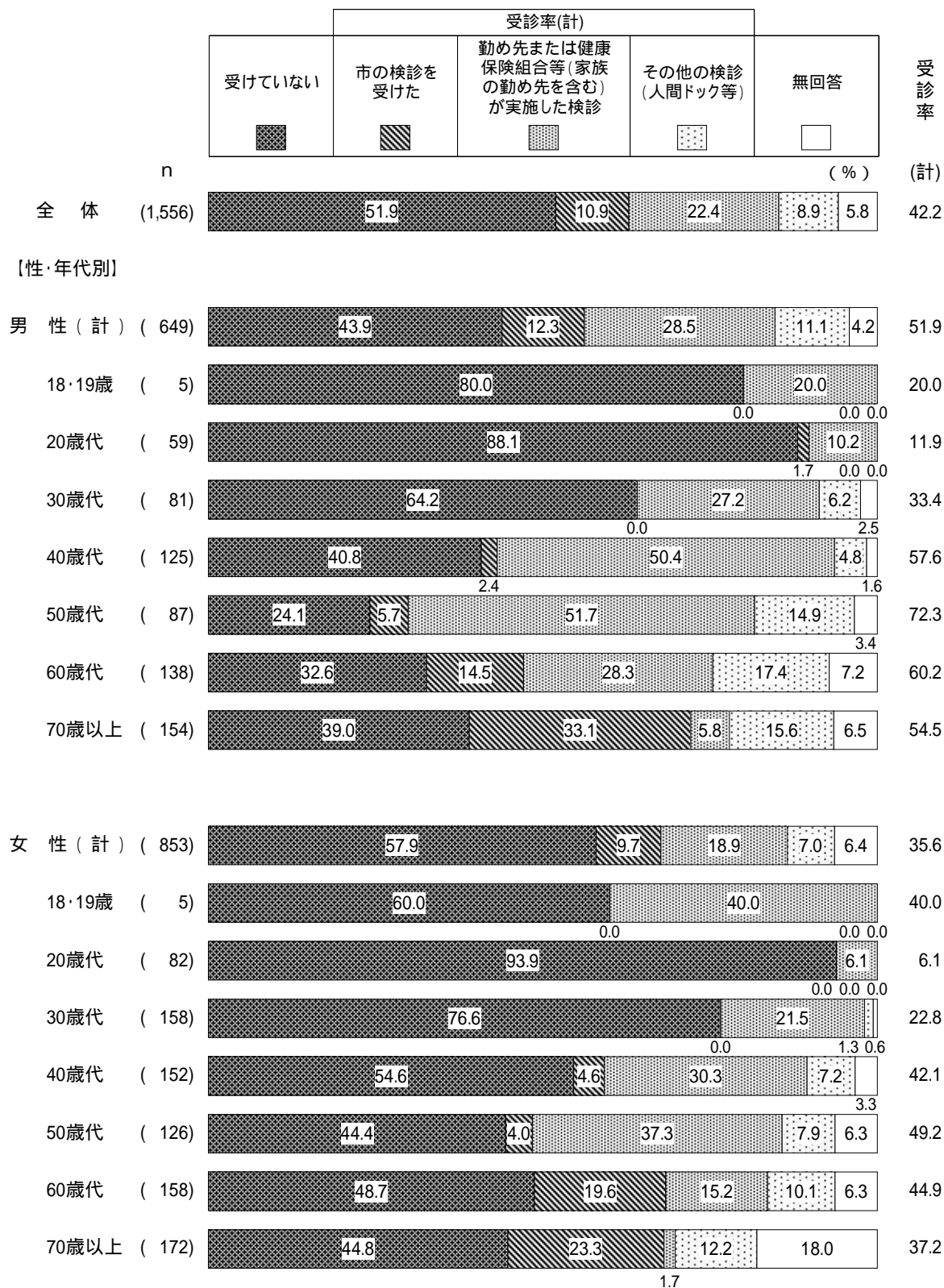
胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）について性・年代別にみると、『受診率（計）』は男性50歳代で6割を超え、男性40歳代で5割を超えて多くなっている。一方、「受けていない」は男女ともに20歳代で10割近くと多くなっている。（図表4-10-6）

図表4-10-6 性・年代別 - 胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）の受診状況



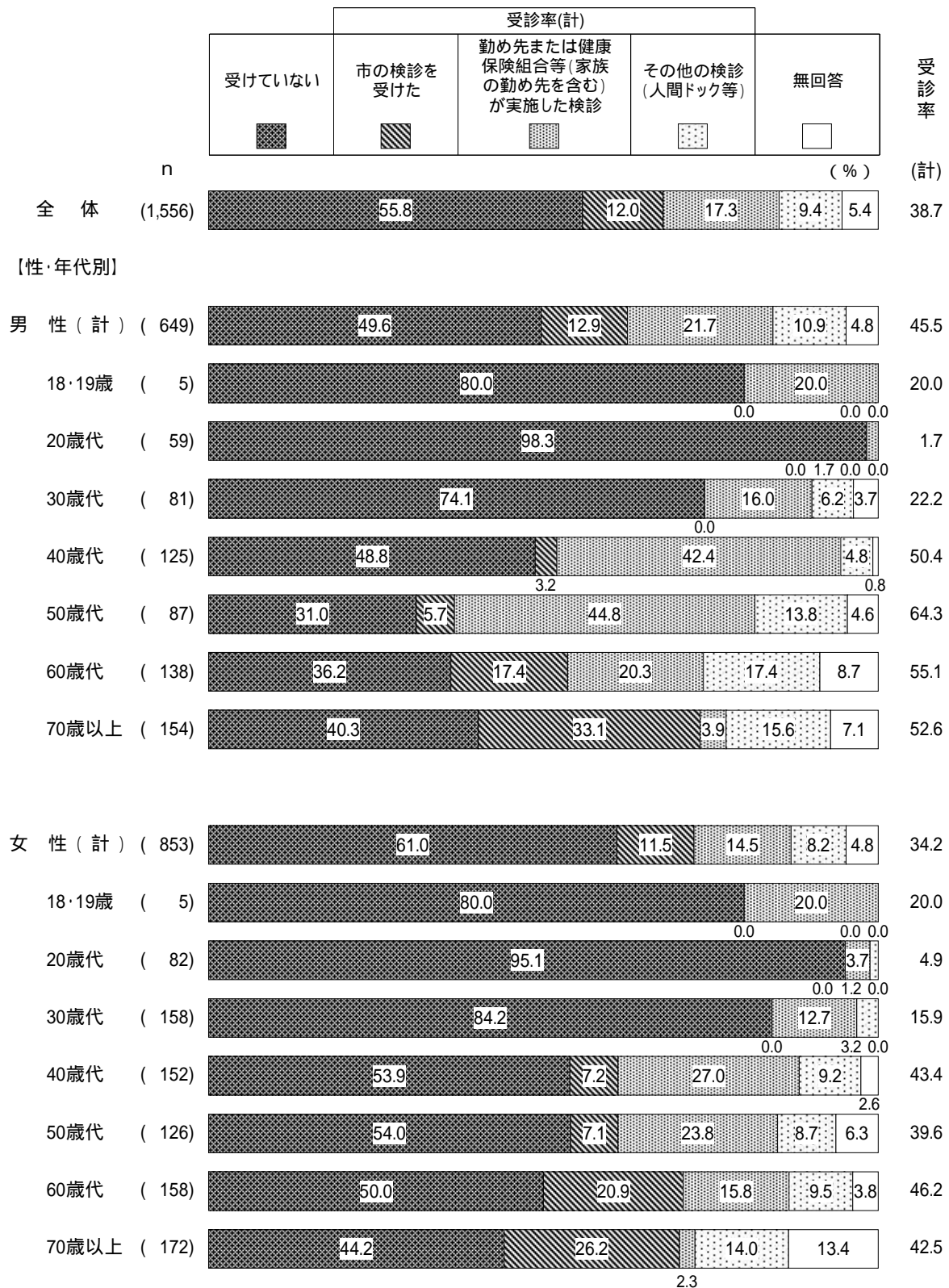
肺がん検診（胸部エックス線撮影）について性・年代別にみると、『受診率（計）』は男性50歳代で7割を超え、男性60歳代で6割と多くなっている。一方、「受けていない」は女性20歳代で9割を超え、男性20歳代で9割近くと多くなっている。（図表4-10-7）

図表4-10-7 性・年代別 - 肺がん検診（胸部エックス線撮影）の受診状況



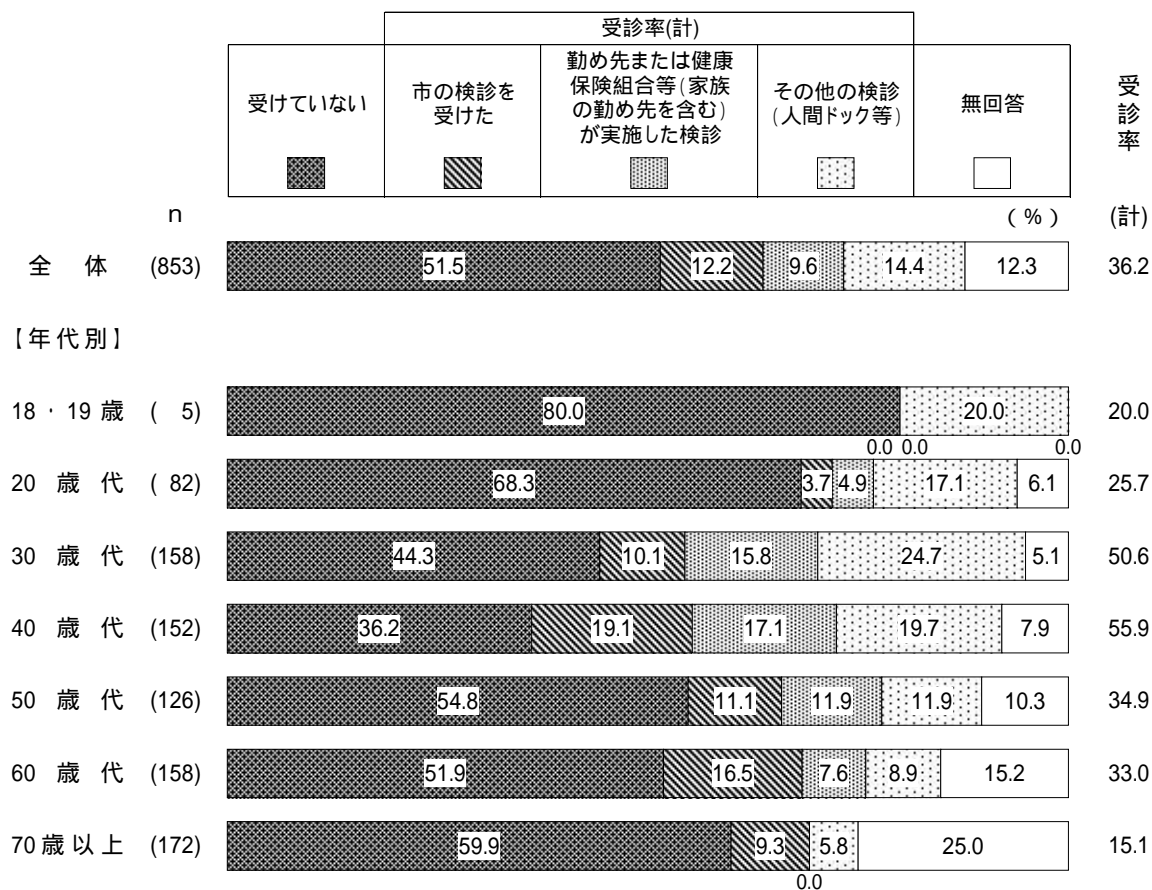
大腸がん検診（便潜血検査）について性・年代別にみると、『受診率（計）』は男性の40歳代以上の年代で5割以上と多くなっている。一方、「受けていない」は男女ともに20歳代で9割台と多くなっている。（図表4-10-8）

図表4-10-8 性・年代別 - 大腸がん検診（便潜血検査）の受診状況



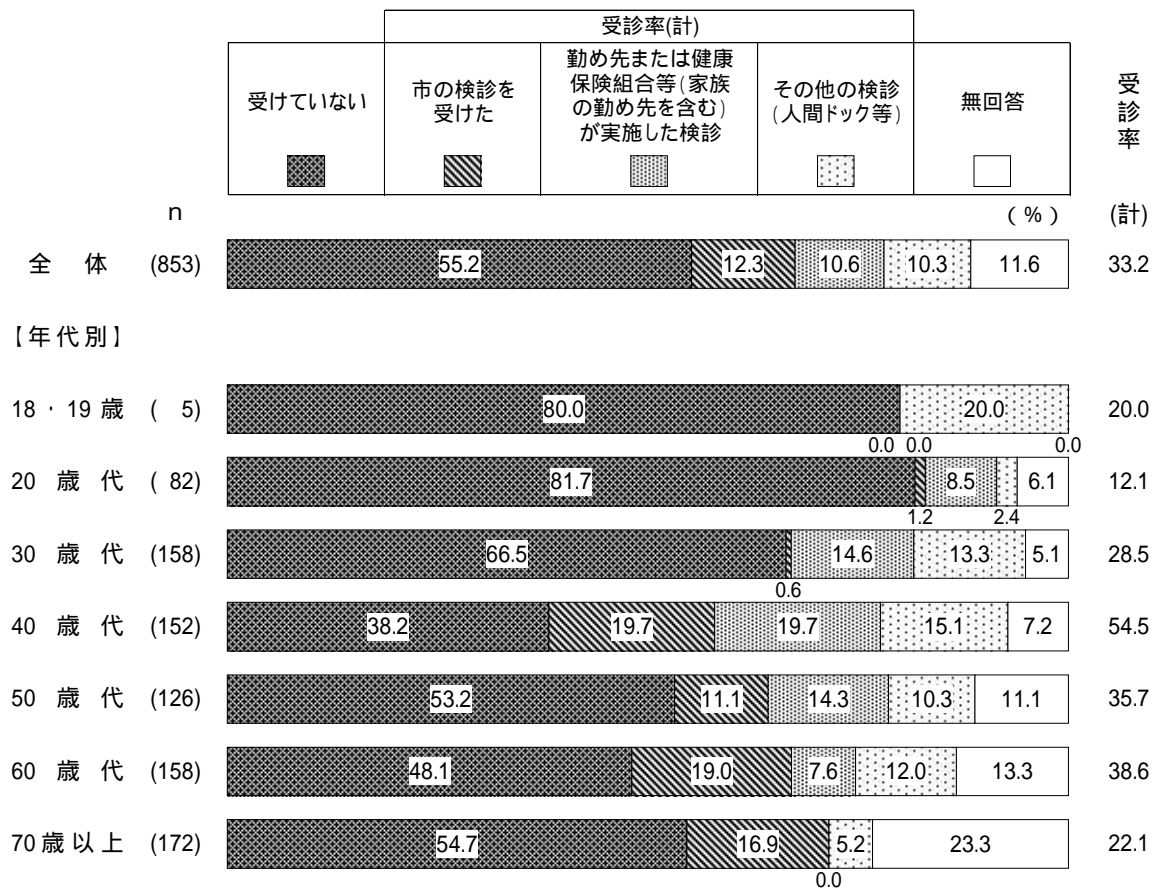
子宮頸がん検診（子宮頸部細胞診検査）について年代別にみると、『受診率（計）』は30歳代と40歳代で5割台と多くなっている。一方、「受けていない」は20歳代で7割近くと多くなっている。
 （図表4-10-9）

図表4-10-9 年代別（女性のみ） - 子宮頸がん検診（子宮頸部細胞診検査）の受診状況



乳がん検診(乳房エックス線検査〔マンモグラフィ〕)について年代別にみると、『受診率(計)』は40歳代で5割半ばと多くなっている。一方、「受けていない」は20歳代で8割を超え、30歳代で7割近くと多くなっている。(図表4-10-10)

図表4-10-10 年代別(女性のみ) - 乳がん検診(乳房エックス線検査〔マンモグラフィ〕)の受診状況



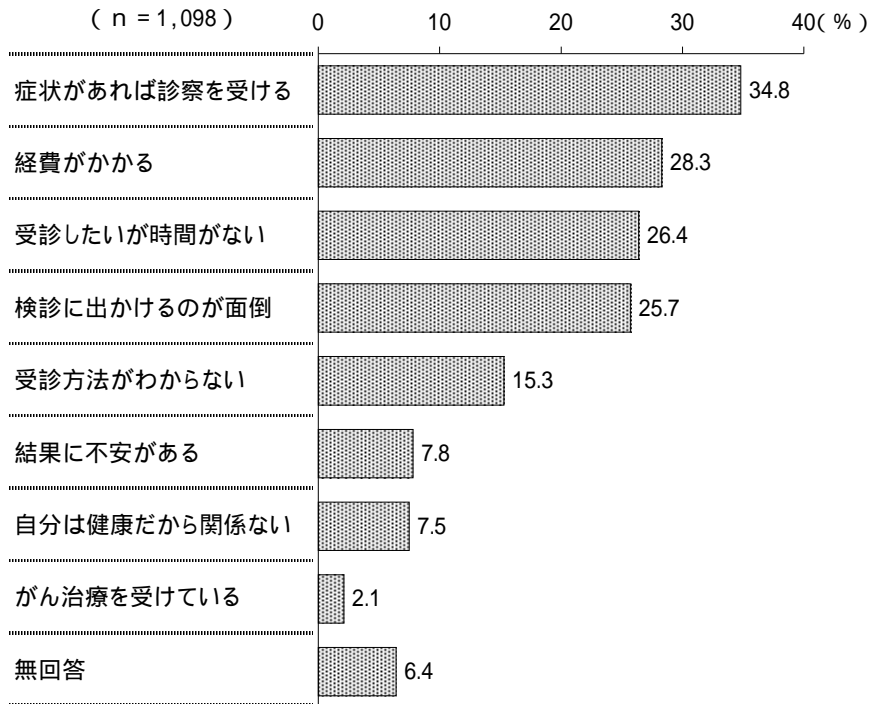
(11) がん検診を受診していない理由

「症状があれば診察を受ける」が34.8%

問29 でひとつでも「受けていない」と答えた方におたずねします。

問29 がん検診を受診しない理由は何ですか。(はいくつでも)

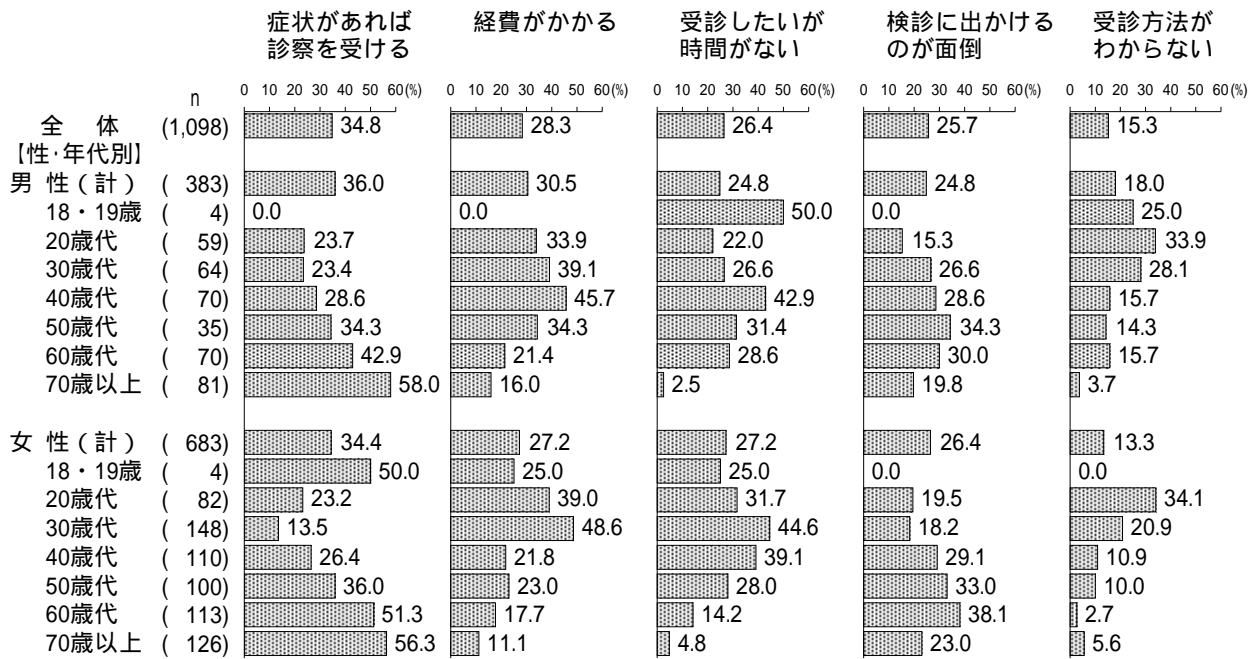
図表 4 -11- 1



問29 でいずれかのがん検診を「受けていない」と答えた人(1,098人)に、その理由をたずねたところ、「症状があれば診察を受ける」(34.8%)が3割半ばで最も多くなっている。以下、「経費がかかる」(28.3%)、「受診したいが時間がない」(26.4%)、「検診に出かけるのが面倒」(25.7%)などの順となっている。(図表 4 -11- 1)

上位5項目を性・年代別にみると、「症状があれば診察を受ける」は男女ともにおおむね年代が高くなるにつれて多く、男性70歳以上と女性の60歳代、70歳以上で5割台となっている。「経費がかかる」は女性30歳代と男性40歳代で4割台と多くなっている。「受診したいが時間がない」は女性30歳代と男性40歳代で4割台と多くなっている。（図表4-11-2）

図表4-11-2 性・年代別（上位5項目） - がん検診を受診していない理由

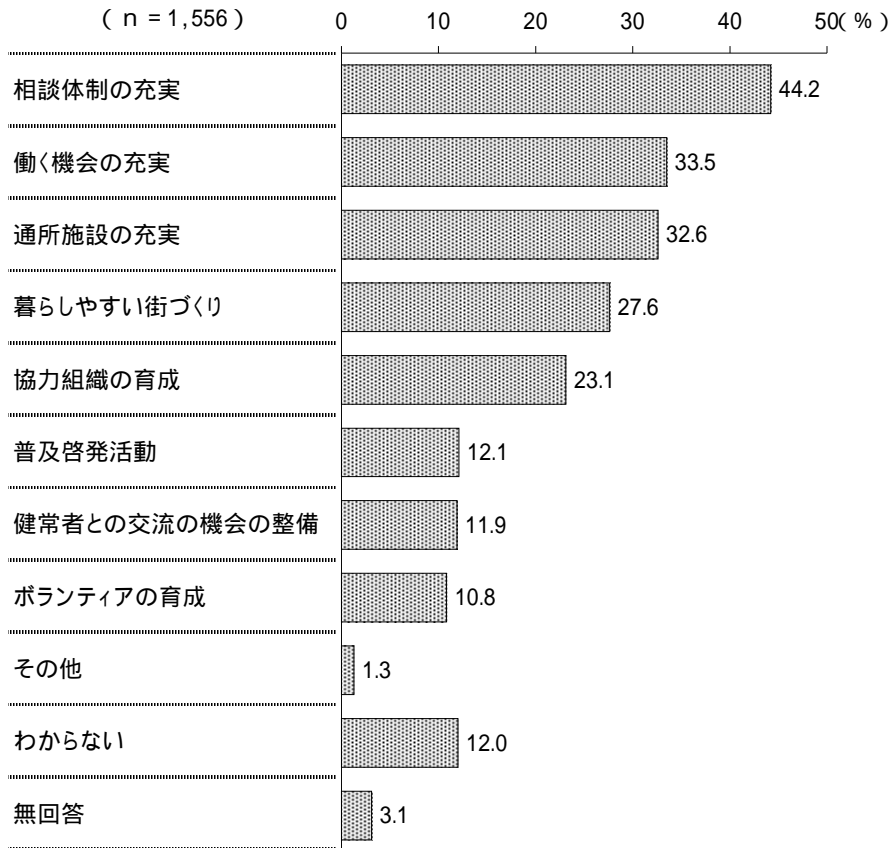


(12) 精神障害者のために充実すべきこと

「相談体制の充実」が44.2%

問30 精神に障害がある方のために特に充実していく必要があると思われるものは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

図表 4 -12- 1

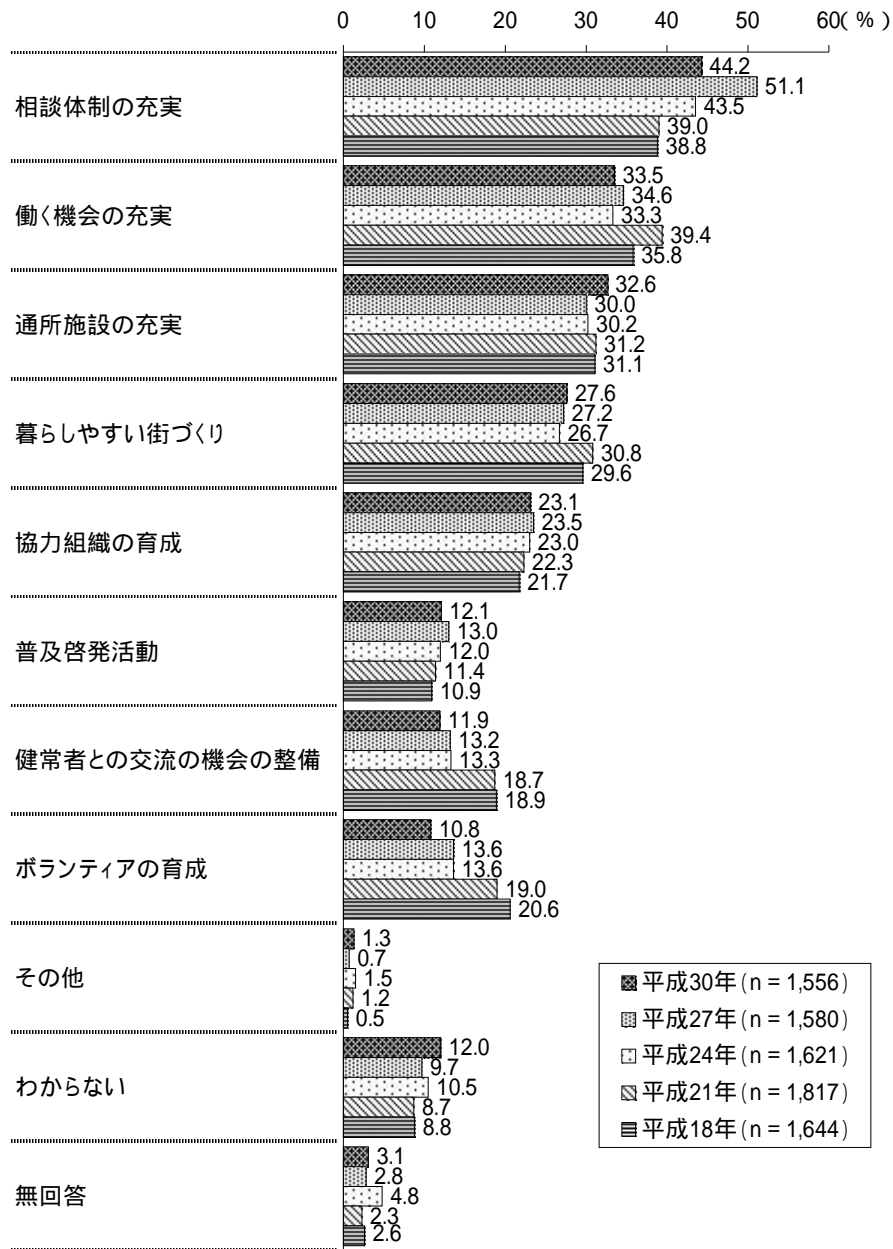


精神障害者のために充実すべきことをたずねたところ、「相談体制の充実」(44.2%)が4割半ばで最も多くなっている。以下、「働く機会の充実」(33.5%)、「通所施設の充実」(32.6%)、「暮らしやすい街づくり」(27.6%)などの順となっている。(図表 4 -12- 1)

時系列でみると、「相談体制の充実」は前回調査より6.9ポイント減少している。

(図表 4 -12- 2)

図表 4 -12- 2 時系列 - 精神障害者のために充実すべきこと

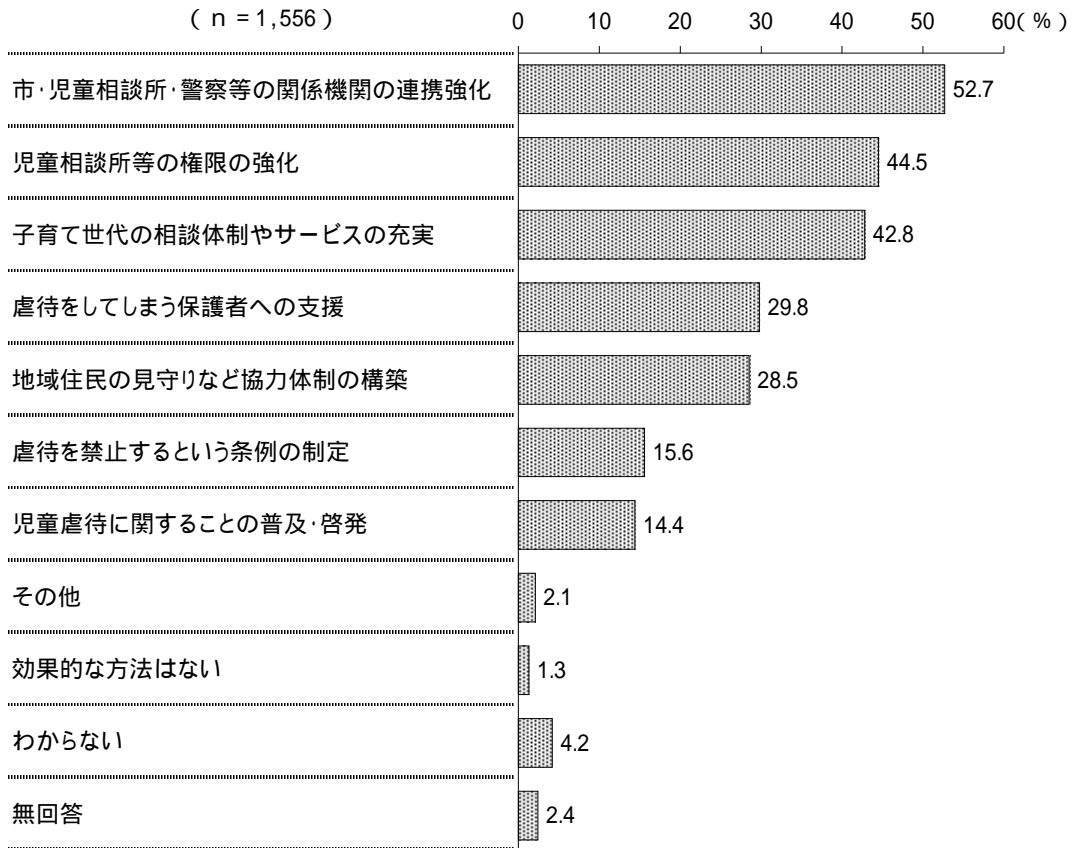


(13) 児童虐待を減らすための効果的な方法

「市・児童相談所・警察等の関係機関の連携強化」が52.7%

問31 児童虐待を減らすためにはどのような方法が効果的だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

図表 4 -13- 1



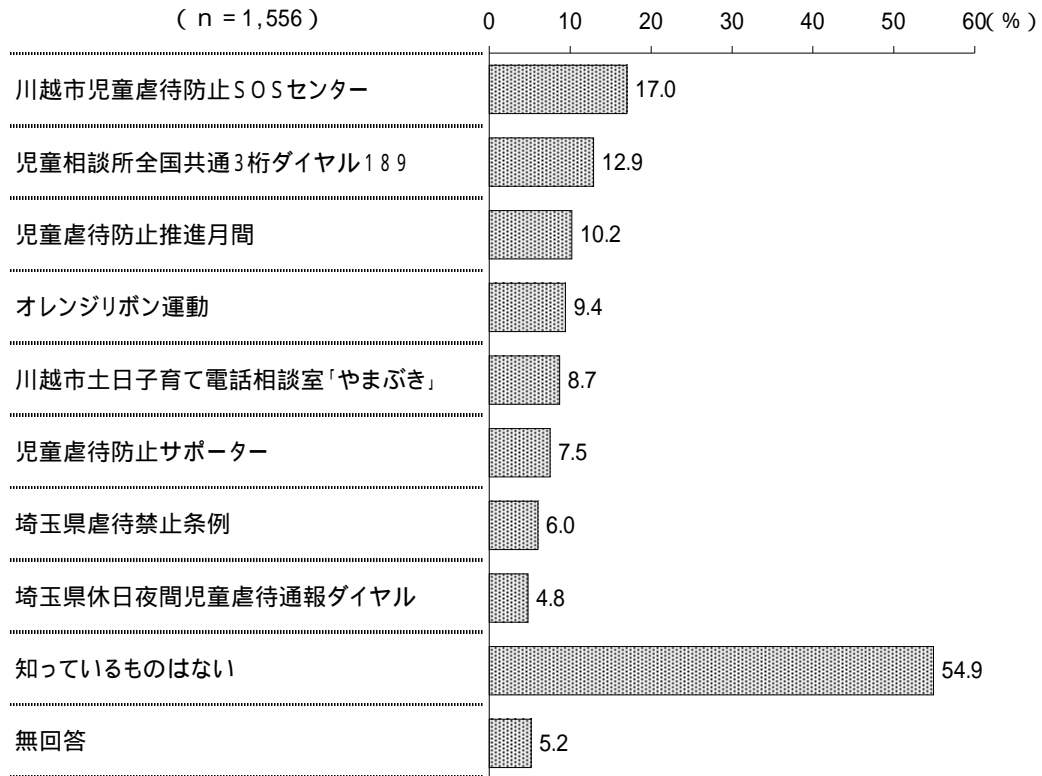
児童虐待を減らすための効果的な方法をたずねたところ、「市・児童相談所・警察等の関係機関の連携強化」(52.7%)が5割を超えて最も多くなっている。以下、「児童相談所等の権限の強化」(44.5%)、「子育て世代の相談体制やサービスの充実」(42.8%)、「虐待をしてしまう保護者への支援」(29.8%)などの順となっている。(図表 4 -13- 1)

(14) 児童虐待に関する国・県・市等の施策の認知状況

「川越市児童虐待防止SOSセンター」が17.0%

問31 児童虐待に関する国・県・市等の施策を知っていますか。次の中から知っているものすべてを選んでください。(はいいくつでも)

図表 4 -14- 1

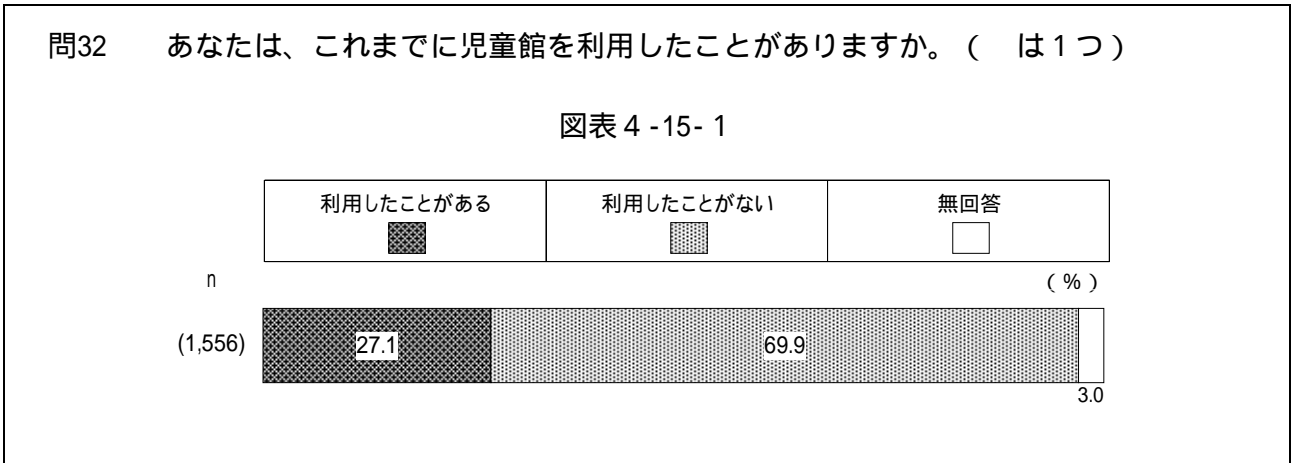


児童虐待に関する国・県・市等の施策を知っているかたずねたところ、「川越市児童虐待防止SOSセンター」(17.0%)が2割近くで最も多くなっている。以下、「児童相談所全国共通3桁ダイヤル189」(12.9%)、「児童虐待防止推進月間」(10.2%)、「オレンジリボン運動」(9.4%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(54.9%)は5割半ばとなっている。

(図表 4 -14- 1)

(15) 児童館の利用状況

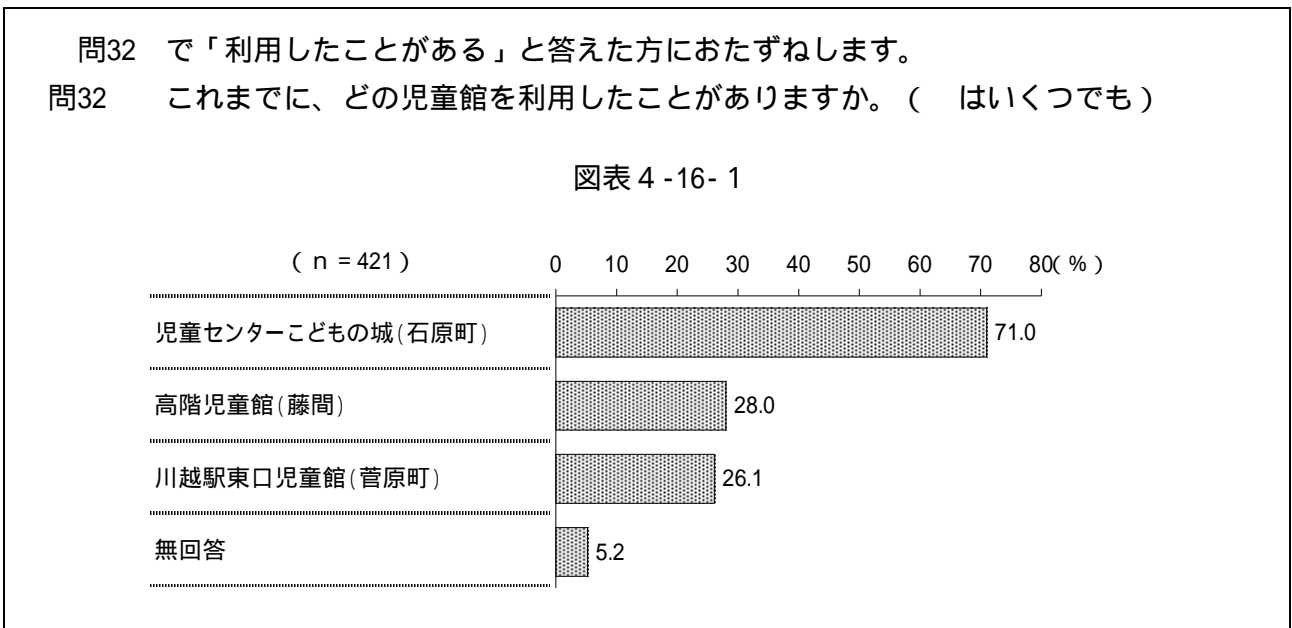
「利用したことがある」が27.1%



児童館の利用状況をたずねたところ、「利用したことがある」(27.1%)は3割近く、「利用したことがない」(69.9%)が7割となっている。(図表4-15-1)

(16) 利用したことがある児童館

「児童センターこどもの城(石原町)」が71.0%



問32 で児童館を「利用したことがある」と答えた人(421人)に、どの児童館を利用したことがあるかたずねたところ、「児童センターこどもの城(石原町)」(71.0%)が7割を超えて最も多くなっている。以下、「高階児童館(藤間)」(28.0%)、「川越駅東口児童館(菅原町)」(26.1%)の順となっている。(図表4-16-1)

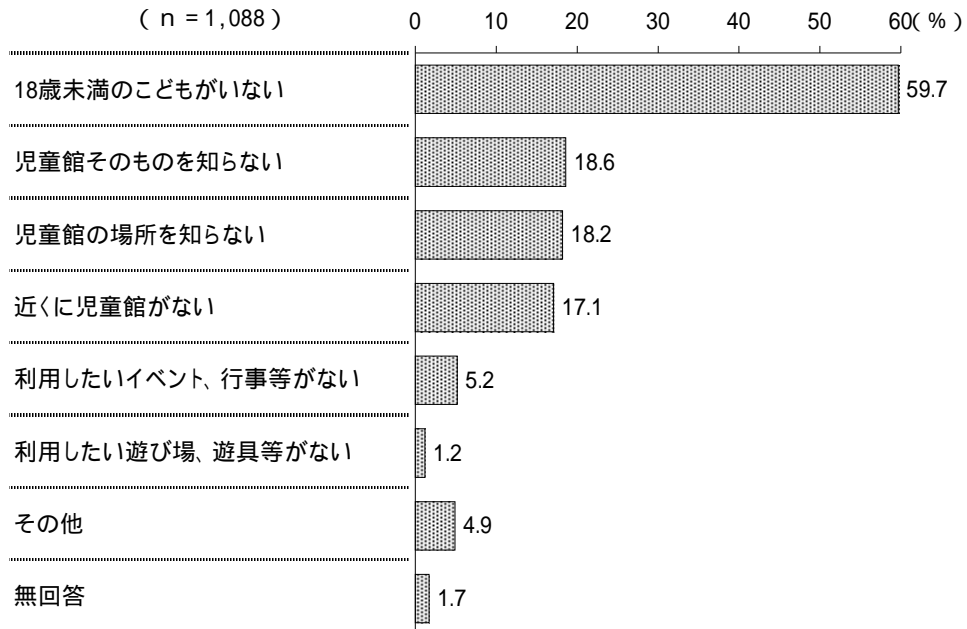
(17) 児童館を利用しなかった理由

「18歳未満の子どもがいない」が59.7%

問32 で「利用したことがない」と答えた方におたずねします。

問32 これまで児童館を利用しなかった理由は何ですか。(はいくつでも)

図表 4 -17- 1



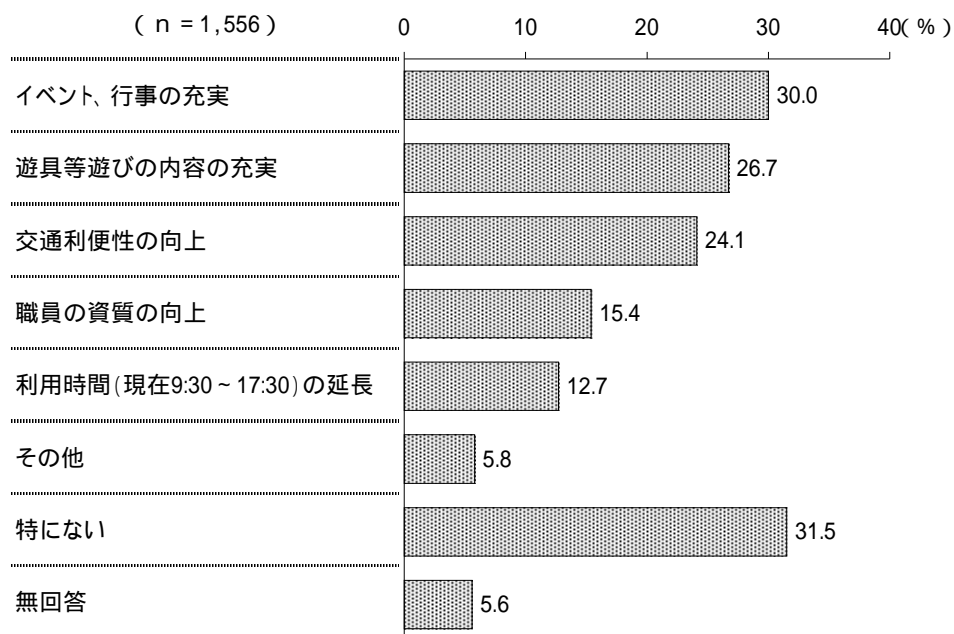
問32 で児童館を「利用したことがない」と答えた人(1,088人)に、その理由をたずねたところ、「18歳未満の子どもがいない」(59.7%)が6割で最も多くなっている。以下、「児童館そのものを知らない」(18.6%)、「児童館の場所を知らない」(18.2%)、「近くに児童館がない」(17.1%)などの順となっている。(図表 4 -17- 1)

(18) 今後児童館に求めるもの

「イベント、行事の充実」が30.0%

問32 今後児童館に求めるものは何ですか。(はいくつでも)

図表 4 -18- 1



今後児童館に求めるものをたずねたところ、「イベント、行事の充実」(30.0%)が3割で最も多くなっている。以下、「遊具等遊びの内容の充実」(26.7%)、「交通利便性の向上」(24.1%)、「職員の資質の向上」(15.4%)などの順となっている。(図表4-18-1)